

三多摩青年合唱団あめあがりコンサート2006

信じる

客演指揮 松下 耕



指揮 峯崎りみ 杉森俊幸
ピアノ 笹有理子 峯崎道子

三多摩青年合唱団
信じる をうたう合唱団

パルテノン多摩大ホール
2006年11月18日(土) 午後6時30分開演

プログラム

指揮 峯崎りみ 杉森俊幸

ピアノ 笹有理子 峯崎道子

宮崎駿アニメ編曲集 (2005年三多摩青年合唱団 混声合唱版委嘱)

寺嶋陸也 編曲

もののけ姫

宮崎 駿 詞

久石 謙 曲

君をのせて

宮崎 駿 詞

久石 謙 曲

さくらんぼの実る頃

ジャン=バティスト・クレマン 詞

アントワヌ・ルナール 曲

三多摩青年合唱団 訳詞

となりのトトロ

宮崎 駿 詞

久石 謙 曲

ロシア合唱曲集

なつかしきヴォルガ (2006年三多摩青年合唱団委嘱初演)

ロシア民謡

金井 信 編曲

北川 剛 訳詞

暗い森

ロシア民謡

スヴェシニコフ 編曲

小野 光子 訳詞

せわしき流れの川

ロシア民謡

スヴェシニコフ 編曲

アムール河の波

ワシリエフ/ボポフ 詞

キュツス 曲

サカロフ 編曲

合唱団 白樺 訳詞

「そして、一輪の花のほかは…」—あたらしい憲法のはなし より

外山 雄三 曲

日本国憲法第九条

木の実

茨木 のり子 詩

式のあとで

石垣 りん 詩

墓標

峠 三吉 詩

休憩

宮崎駿アニメ編曲集

元々、女声合唱として編曲されたが、2005年、三多摩青年合唱団のために混声合唱版にリメイクされた。

ロシア民謡と合唱曲

戦後、うたごえ運動によって爆発的に広がり愛されてきたのがこれらの歌。今年の日露国交回復50周年。

「そして、一輪の花のほかは…」—あたらしい憲法のはなし

1983年関西合唱団が初演。3章からなる。今日は第3章から、新しい憲法のはなしを除いた部分を演奏する。

客演指揮 松下 耕
練習指揮 森永 淳一
蟹江 春香

混声合唱のためのア・カペラエチュードより

光が
にわとり
おやすみ

松下 耕 曲
工藤 直子 詞
谷川 俊太郎 詞
くどう なおこ 詞

ポップス編曲集より

未来予想図Ⅱ
天までとどけ
北の国から

松下 耕 編曲
吉田 美和 詞曲
さだ まさし 詞曲
さだ まさし 曲

混声合唱とピアノのための 信じる (2006年三多摩青年合唱団委嘱初演)

ふるさとの星
くり返す
泣けばいい
信じる

谷川 俊太郎 詩
松下 耕 曲

混声合唱のピアノのための 信じる

今回、三多摩青年合唱団が委嘱して下さったこの組曲は、2004年にNHK全国学校音楽コンクール中学校の部課題曲として発表した『信じる』という曲を軸に組曲化したものである。

中学生のために書かれたこの曲は、混声3部版と女声3部版が存在していたが、この度、三多摩青年合唱団のために、混声4部版を作成した。

この『信じる』という詩は、谷川俊太郎氏が、この曲のために書き下ろしたもので、シンプルで感動的なものである。この曲を書くにあたり、NHKからFAXされてきた詩を初めて読んだ私は、感動で涙を禁じえなかった。そして、その後長い時間、この詩のすばらしさに圧倒されて、音符を一つも書けなかったことを思い出す。

難産だったこの曲だが、だからこそ愛着を感じていることもまた、事実である。そして、コンクール終了後の今でも、中学生のみならず、数多くの合唱団がこの曲を採り上げてくださっていることは、私にとって本当に嬉しいことである。

地球があって、友がいて、そして自分がいる。だから、地球を守ること、友をいたわることは、自分をいたわることだ。

そのことを、この4編の詩は私達に教えてくれている。

しかし、この世はなんと、近視眼的なものの考え方で進んでいるのだろう!

まるで、自分がいるから、この地球がある、とでも言わんばかりだ。

どんな人たちが歌っても楽しく、そしてどんな人たちが聴いても良くわかる曲を書きたかった。だから、細かな説明はここではしたくないし、する必要もないだろう。ただ、ご来場の皆様は、曲を聴かれる"前"に、ぜひ谷川さんの詩をお読みいただきたく思う。

4曲とも、東京・八王子の自宅で完成したものだが、2曲目の草稿だけは、フィンランドの港町、ヴァーサで書いた。白夜の大自然、静かなバルト海(ボスニア湾)と灌木たちのささやきの中に身をおきながら、静かにわが星、我らがいのちを想った音群である。これ以上、地球を泣かせたくはない、心からそう想いペンを走らせたのであった。

松下 耕